

# 選択 16 幼小中連携をめざした食育推進

## 一日々の食卓を介して

**開講日** 8月 16日(水)

**受講料** 6,000 円

募集人員	時間数	履修認定対象職種	試験方法	担当講師
60名	6時間	教諭・栄養教諭	筆記試験	
<p><b>講習内容</b></p> <p>食に関する指導は日々の食生活に還元していくことが欠かせないことより、行動科学理論等、教科学習と異なる学習法を一部取り入れつつ、楽しく学ぶことを前提とする。教諭と共に取り組む食育推進、幼小中連携の食育推進のもと、生涯にわたる健康的な生活習慣、食習慣形成を図る授業法等、演習を取り入れた講座とする。</p>				<p>龍谷大学 非常勤講師 宮本 郷子 大阪市立大学大学院 生活科学研究科 特任教授 春木 敏</p>
<p><b>主な受講対象者</b> 小学校・中学校 教諭・栄養教諭</p>				

時限	担当講師	授業概要
1限	宮本 郷子	<b>学校教育における食育の意義</b> ：食に関する指導は、児童生徒の学校生活に深く結びついています。個々の児童生徒の食に関する気持ちや意識を踏まえつつ、教科学習と関連させた食に関する指導のもと、学校教育における食育の意義について、具体例を挙げながら考えていきましょう。
2限	春木 敏	<b>幼小中連携の食育推進</b> ：生涯における食生活の基本は幼少期に形成されます。幼稚園・保育所園にて日々、学ぶ基本的な食事マナーは、小学校入学時に有用となります。小学校では、学校における給食準備・片付けなどを通して、“つくってくれる人たちへの感謝” “食物の命をもらって生きている”ことを実感する発達段階における重要な食育機会となります。こどもたちは、これら、日々の食生活を通して、命を守る食の大切さを学びます。
3限	春木 敏	<b>幼小中学校における食育の方法</b> ：食育実践に向け、教科学習ならびに学校給食活動等における食育と家庭における食育を有機的につなぐ方法論を用いて、発達段階に応じた望ましい食習慣形成を図る具体策について検討・演習をします。
4限	春木 敏	<b>小中学校における食育推進</b> ：学校における現行の食育は、特別活動や学級活動など単発実施されることが依然として多く、健康な食習慣形成につなぐことは難しい。各学年の教科学習に位置づく系統立てた食育により健やかな食生活を実現することができます。児童生徒のプライマリヘルスケアをめざす食育実践はどうあるべきかを共に検討していきましょう。
受講生へのメッセージ		これまでの食育を振り返り、学校（教諭・栄養教諭・養護教諭）と家庭・地域（日々の食生活）の連携による食育を推進し、教諭、保護者、地域諸団体等の共通認識のもと、後10年を見据えた望ましい食育環境をつくっていきましょう。